

1. 基本情報

*講師や諸般の都合により、プログラム内容が変更になることもあります。予めご了承ください。

1) 研修コース名：	天水稲栽培・種子生産及び品種選定技術
2) 担当者名：	松井 駿（研修コース委託先業務総括： 浦山氏）
3) 期間（日数）：	9月1日（月）～9月5日（金）5日間
4) 定員：	受入人数4人程度
5) 言語：	英語(実施内容を英語で理解できること)（※目安 TOEIC 550点以上程度）
6) 主な対象学生：	生物学系、農学系、開発学（但し、農業に係るフィールドを基礎）関係の学部3年生以上及び大学院生が望ま
7) 研修員の出身国：	バングラデシュ、ガイアナ、エチオピア、ガーナ、ウガンダ、アンゴラ、カメルーン、シエラレオネ

2. コンテンツ

本プログラムの目的	アフリカのネリカ稲（NERICA）を含む稲の栽培、種子生産、品種選定について学び、コメ生産を通じてアジア・アフリカ地域の貧困問題、食糧の安定供給について考えます。
-----------	---

日程表

No	日付	曜日	時間	テーマ	形式	概要
1	2025/9/1	月	09:00-09:25	プログラムオリエンテーション		関係者紹介、プログラム説明、諸連絡等
			09:45-12:15	個別実験調査：収量調査	実習	研修員各人の課題栽培実験の調査
			13:30-16:00	個別実験調査：収量調査	実習	研修員各人の課題栽培実験の調査
2	2025/9/2	火	09:45-12:15	稲の収量と収量構成要素 1	実習	稲の収量調査方法と収量構成要素について
			13:30-16:00	個別実験調査：収量調査	実習	研修員各人の課題栽培実験の調査
3	2025/9/3	水	09:45-12:15	稲の収量と収量構成要素 2	講義	収量の成り立ちについて（何故収量構成要素が必要か）
			13:30-16:00	稲収量調査の実際	講義	品種の選定方法と純系系統種子の収穫
			16:15-16:45	中間レビュー		中間時プログラムの振り返り（受講者から所感、質疑含め）
4	2025/9/4	木	09:45-12:15	個別実験調査：収量調査	実習	研修員各人の課題栽培実験の調査
			13:30-16:00	純系系統・原原種種子圃場の抜き取り調査	実習	種子生産圃場における同一品種ではない異形、混ざり品種の抜き取り
5	2025/9/5	金	09:45-12:15	アフリカの稲作	講義	アフリカ諸国の多様な生態系における稲栽培について
			13:30-16:00	個別実験調査：収量調査	実習	研修員各人の課題栽培実験の調査
			16:15-17:15	プログラムの振り返り		国際協力理解講座のプログラムを体験した結果を発表

3. 留意事項

・ 上記日程表は現時点での案であり、今後変更の可能性があります。 ・ 実験・実習がありますので、身軽で汚れても良い服装と靴を準備してください。 ・ 開始時間には、時間厳守で集合してください。終了時間は、作業の関係で遅れることがあります。
--

4. 学生さんへ一言

・ 諸国を代表する研修員とのコミュニケーションを積極的に取っていただき、楽しく実りあるプログラムであると同時に、途上国の技術者等への指導業務について、知っていただく機会にしたいと思います。アフリカが抱える食糧問題について皆で考えてみましょう。 ・ 英語でのコミュニケーションになりますが、積極的な参加をお願いします。 ・ 自然科学系の内容ですが、食糧生産に関心の高い社会学系（開発系）の方の応募も受け付けます。

5. その他

・ 参加者には、事前に研修員各国の概要など目を通していただければと思います。各国の現状（気候条件や畑作物の作付状況等）や研修員が抱える課題を理解し、関心をもった内容について、講座中はぜひ研修員と積極的に意見交換をしてみてください ・ 実験・実習は畑地が主ですが、小規模な水田（原原種種子生産用）での作業も若干あります。
--